

NATIONAL HOSPITAL ORGANIZATION TOKYO MEDICAL CENTER

独立行政法人国立病院機構 東京医療センター



for Life

いのちのために

東京医療センターにかかわるすべての人へ。 私たちは、いのちと健康をともに考える医療機関です。

We think about health together with our patients. This is the principle of our medical services.

健康でありたいと願うことは、患者の皆様と私たち医療スタッフがもつ共通の想いです。だからこそ当院では「ともに健康を考える」ことを基本理念に掲げています。患者の皆様と医療スタッフがいつも同じ視点に立ち、健康に向かって一緒に歩みたいと考えています。東京医療センターはこれからも、患者の皆様とともに、よりよい医療を実践していきます。

シンボルマークの意味 ▶

始まりは、手当てから。不安を和らげ、温もりのある心のふれあい。そして明日への希望を表現しています。



基本理念 運営方針

東京医療センターは患者の皆様とともに健康を考える医療を実践します。

1. 良質で専門性の高い安全な医療を提供します。
2. 十分な説明と同意のもとで、安心の医療を提供します。
3. 教育、研修、研究を推進し、良き医療人の育成に努めます。
4. 健全な経営に努め、地域に信頼される医療を推進します。

患者の 皆様の権利

- 安全で良質な医療を平等に受けることができます。
- 自分の病気について知る権利を持ち、理解し納得するための質問をする権利があります。また病名や予後について知りたくない場合は、そのお気持ちを尊重します。
- 説明を受けたうえで、自分が受ける医療を自分で決定することができます。またその変更を申し出ることができます。
- セカンドオピニオン(主治医以外の医師の意見を聞くこと)を求めたり、転院したりするための紹介状を請求することができます。
- プライバシー(個人情報)を他人に知られない権利は厳重に保護されます。
- 診療録の開示を求める権利があります。

病院からの お願い

- 安全で良質な医療を実現するために、ご自身の健康に関する情報を正確に医療従事者に伝え、検査や治療を受けている途中に異常を感じた場合は、すぐにお知らせ下さい。
- 緊急の場合などには、医療従事者の判断を優先して診療を行わざるを得ないことがありますので、ご理解をお願いします。
- すべての人が適切な医療を受けられるために、病院内の規則をお守り下さい。
- 当院は教育・研究機関でもあり、医師、看護師、助産師をはじめとする医療従事者の研修および臨床研究にご理解とご協力をお願いします。
- 当院の運営は皆様の診療費によって行われておりますので、お早めにお支払いをお願いします。

沿革

当院の前身は、昭和17年9月に創立された

- 海軍軍医学校第二付属病院
- 海軍第一療品廠(海軍の医薬品を製造)
- 財団法人東京海仁会病院(海軍軍人の家族の診療を担当)

の3施設が、昭和20年12月に厚生省に移管され、国立東京第二病院として発足。当時から、前身が陸軍病院であった新宿区の国立東京第一病院と並び「東一」、「東二」と称せられ、国立病院の代表的存在として発展してきた。

建物の経緯としては第一次基幹病院整備計画として当院の第一次整備工事は、昭和33年12月に着工し、昭和38年12月に完成した。

昭和62年3月に第二次整備工事が始まり、平成11年4月に完成した。この間、平成10年4月、病院の名称を「国立病院東京医療センター」と改め、名実ともに新しい病院として生まれ変わった。

その後平成16年4月1日に独立行政法人に移行し名称も「独立行政法人国立病院機構東京医療センター」と改められた。

message



つねに時代の先を見据え、
医療の現場をリードします。

We always aim to be a leading hospital and ahead of the times.

院長 松本 純夫

独立行政法人国立病院機構に属する145の病院の中で、急性期病院として東京医療センターは4疾病(がん、急性心筋梗塞、脳卒中、糖尿病)5事業(救急医療、災害時医療、へき地医療、周産期医療、小児医療)を中心に幅広い医療を提供しています。現在、日本の医療は後期高齢者の増加に伴う疾病構造の変化や医師不足など、さまざまな問題を抱えています。こうした時代背景の中、当院は「時代を読み、変化に対応した医療を提供する先駆者」として政策を具現化しています。時間外診療においては一次、二次救急に対応すると同時に、三次医療を担う救命救急センターを設置、集中治療室(ICU)・コロナリケアユニット(CCU)・新生児集中治療室(NICU)は24時間稼働しています。PET/CTを新設し、近年、高齢化に伴って増加するが

ん、悪性リンパ腫などへの診断能力を高めています。限られた病床数で高度な医療を提供するには、地域医療施設との連携が不可欠です。そこで当院は地域医療連携室の体制強化を目指し、専任スタッフを増員、また登録医制度を開始しました。既に1000名を超える医師および施設の登録をいただき、スムーズな病診・病病連携を実現しています。さらに臨床ばかりでなく、研究拠点施設として臨床研究センター(感覚器センター)を中心に基礎的研究も推進しています。今後は眼と耳の領域ばかりでなく、急性期病院にふさわしい臨床分野でも研究領域を広げていきたいと考えています。今、日本の医療は大きな転換期を迎えています。私たち東京医療センターは先を見据え、改革を進めるリーディングホスピタルとして機能発展を目指しています。



患者の皆様信頼される看護を
提供できる看護師を育成します。

We will bring up the nurses who are trusted by patients.

看護部長 野中 廣志

東京医療センターには630人の看護師が勤務しています。平均年齢27歳代という若い看護師が多い中で、専門職業人として立派に看護を展開し、患者の皆様やご家族の方々に感謝や激励、満足の言葉をいただいています。医師をはじめとしてさまざまな職種の間が働く病院では、各人がそれぞれの責任で与えられた役割を安全に、確実に遂行しなければなりません。そのためには個人の素養はもちろんですが、自主自学の精神とそれを支えるプリセプター、教育担当看護師長などの関わりによって知力と技術力を確実に向上させていくことが求められます。学んだことを現場で実践していくことで、患者の皆様やご家族の方々に安心して医療を任せてもらえる病院として信頼していただける

ようになります。その相乗的な関わりによって、私たちは自らの果たす役割に充実感や満足感がもてるようになるのです。私たち看護師は「病める人の生命・権利・意思を尊重し、安心と信頼に応える看護を提供するとともに仕事を通して自己成長を図る。」という看護部の方針に基づいて活動しています。心と体の苦痛が少しでも軽くなるような看護を提供しつつ、患者の皆様や家族の方々にチームの一員として一緒に健康を考えていく病院の基本理念を大切にしながら、看護師としての自分を成長させていきます。知識や技術に加え、いつでも、どのようなときも笑顔と思いやりを忘れない、心にゆとりのある看護師の育成を目指しています。





力を合わせて患者の皆様のために

東京医療センターの総合力

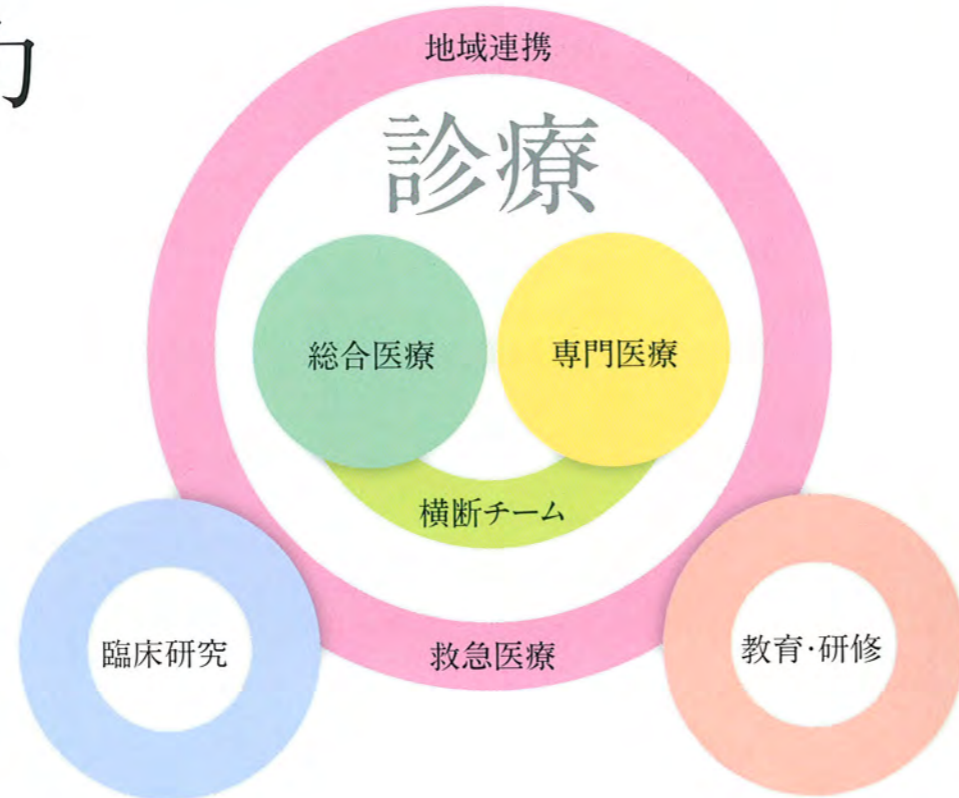
Integrated Power of Tokyo Medical Center

総合医療と専門医療が融合した急性期病院として社会に貢献します。

We combine comprehensive care and highly specialized medicine to make an ideal acute care hospital.

東京医療センターは急性期病院として、患者の皆様や社会に貢献できる医療を目指し、さまざまな取り組みを行っています。それは高度な専門医療や臨床研究だけにとどまりません。患者の皆様一人ひとりに最適な医療行為を行うために、専門職を横断したチームを結成するなど、患者の皆様にご満足いただける総合医療を提供しています。

東京医療センターは、専門医療と総合医療が融合した診療機関です。その本体は、優れた医療人を育成する教育・研修と、先進的な研究成果を発信する臨床研究の両輪によって支えられています。



院内横断チーム Cross-sectional Teams

東京医療センターでは、多職種で院内横断チームを結成しています。チームごとにカンファレンスやラウンドを実施し、担当医の診療をサポートすることでチーム医療につなげています。



医療安全推進チーム Medical Safety Management Team

安全管理の専門職と全部署からの医療安全推進担当者が活動しています。ヒヤリ・ハットとするような出来事やアクシデントの分析、対策、指導を行い、安全な医療の提供を推進しています。



感染制御チーム Infection Control Team

病院感染問題や結核、エイズからその他の感染症、食中毒に至るまで、細菌やウイルスなどの関係する問題に対して指導的役割を担っています。



褥瘡対策チーム Pressure Sore Prevention Team

寝たきりで栄養状態が悪くなると発生しやすくなる褥瘡に対して、予防や早期発見、専門的治療を行い、横断的に活動する専門チームです。



栄養サポートチーム Nutritional Support Team

栄養状態の悪化は、免疫機能の低下などから回復の遅れにつながります。栄養サポートチームは、栄養学の専門的な知識を持つ多職種から構成され、栄養のサポートを行っています。



緩和ケアチーム Palliative Care Team

がんなどを持つ患者さんの肉体的・精神的・霊的苦痛を和らげるための専門チームを結成。まさに多職種による全方位チーム医療を提供し、患者・ご家族・医療者の悩みに対応します。



災害医療チーム Disaster Medicine Team

職域横断の災害対策チームによって企画運営された大規模災害訓練が毎年行われています。また、他地域の災害に対応するDMATチームも編成され、緊急出動に備えています。



for fighting against cancer

がんと闘うために

がん診療の基幹施設

A Key Institute for Cancer Treatment

最新の医療技術と心のこもったケアで
がんと闘う患者の皆様の不安を取り除きます。

We intend to free cancer patients from anxiety through advanced medical technology and kind-hearted care.

患者の皆様に優れたがん医療を提供するため、東京医療センターでは高度な診療や緩和ケアを提供しています。2008年には、国が指定するがん診療連携拠点病院と同等の高度な診療機能を有する病院として、東京都の「東京都認定がん診療病院」に認定されました。今後も、がん医療の中心的な役割を担い、患者の皆様の身体と心のケアに注力します。

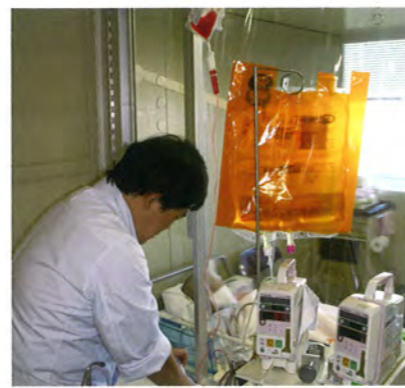
▶東京都認定がん診療病院

東京医療センターを含め10カ所ある都認定病院の役割は、①質の高いがん医療の提供、②患者の皆様やご家族などに対する相談支援や情報提供、③地域がん診療連携拠点病院との連携体制構築です。当院も、認定病院としての役割を果たし、都全体のがん医療水準の向上に貢献しています。



前立腺小線源治療 Brachytherapy for Prostatic Cancer

前立腺癌に対する小線源療法は前立腺内に小さなカプセル状の放射線源を埋め込み、前立腺内から照射を行う放射線治療です。がんが前立腺内に限局している場合に実施が可能で、治癒率が高く、体に対する負担や副作用の少ない治療です。



無菌室治療(造血器腫瘍) Bioclean Room Treatment for Patients with Hematologic Malignancies

無菌治療室では、血液がんの化学療法、造血幹細胞移植を行っており、自家移植、血縁者間移植とともに、骨髄バンクドナーからの非血縁者間移植、臍帯血移植も行われます。



画像診断(PET/CT) Positron Emission Tomography

PET/CT 検査とは、がんの検査方法のひとつです。早期がんの発見に威力を発揮します。がんは早期に発見することで、予後の大幅な向上が望めます。



▲待機室



通院治療センター Outpatient Chemotherapy Unit

通院治療センターは、乳がん・大腸がん・悪性リンパ腫・膵臓がんの患者さんを中心に外来化学療法を行っています。看護師は安全・安楽に治療ができることを目標に日々看護に取り組んでいます。



内視鏡手術 Laparoscopic Operation

松本院長が専門とする腹腔鏡下手術は、近年ますます増加し、胆嚢、大腸、胃の疾患をはじめ、多くの患者さんが低侵襲な手術の恩恵を受けています。

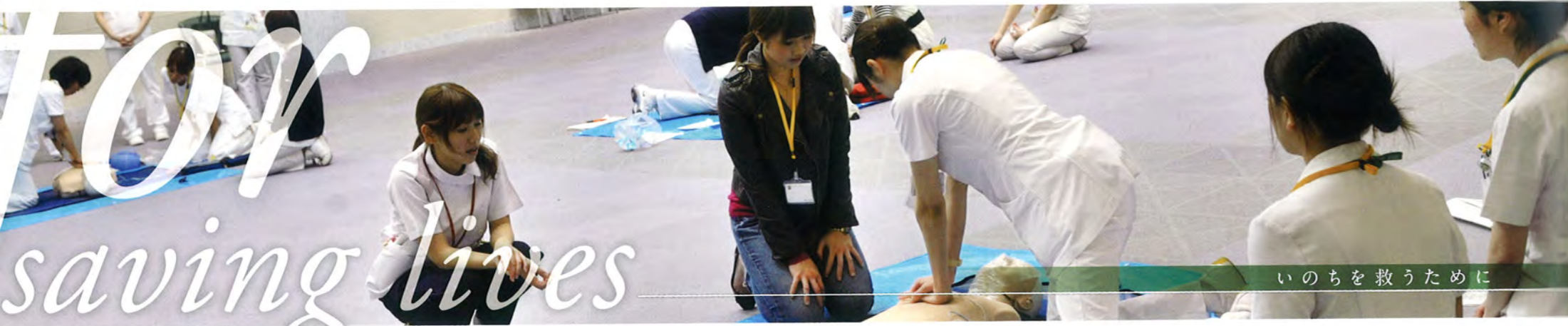
頭頸部がん治療 Head and Neck Cancer Treatment

発声、嚥下、咀嚼といった重要な機能に関わる頭頸部のがんに対しては、手術のみでなく、化学放射線治療などの集学的治療を行い、積極的に機能の温存を図っています。



放射線治療 Radiation Therapy Center

臨床腫瘍学を背景に、がん患者の皆様によさしい治療を提供します。小線源治療では国内トップレベルですが、進歩の速い放射線治療の世界標準レベルに達するべく邁進しています。



救急医療

Emergency Medicine

迅速な救命のために、全職員が一丸となり救急医療の連携体制を強化しています。

All of us work in close cooperation to be ready for emergency life saving.

救命救急センターに入院する重症患者数は、年間1000人以上。当院では、総合病院の利点を生かし、三次救急医療にも対応したチーム医療で、総合的な治療にあたっています。また、院内全職員1000名に対し、救急医療に関する教育活動を実施。スタッフ一丸となって、患者の皆様から頼りにされる医療機関を目指します。

救命救急センター

Emergency and Critical Care Service



最も重篤な救急患者を専属の医師・看護師だけでなく、病院の総力を結集して治療します。救命救急センターには今日も重症の患者さんが搬送されてきます。



心臓カテーテル

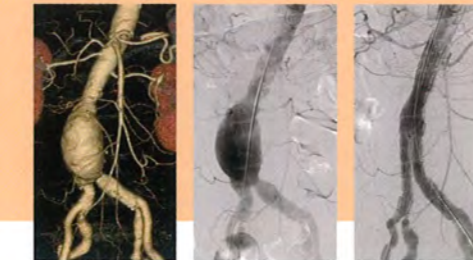
Coronary Angiography and Percutaneous Intervention



近年、食習慣の欧米化に伴って増加している狭心症や心筋梗塞といった冠動脈疾患の確定診断に不可欠で、必要に応じてカテーテル治療も行っています。東京都CCUネットワークに参加しています。

インターベンショナルラジオロジー

Interventional Radiology



インターベンショナルラジオロジー(IVR)と称される画像誘導下低侵襲治療を行っており、血管造影の技術を用いた動注療法、塞栓術、血管形成術など、CTガイドの下での病変の生検やドレナージなども施行しています。

脳血管内治療

Neuroendovascular Therapy



破裂脳動脈瘤(くも膜下出血)、未破裂脳動脈瘤、血管奇形に対する脳血管内手術(カテーテル治療)を行っており、脳梗塞に対する外科治療(頸動脈ステント留置術)も症例を積み重ねています。

周産期救急医療

Perinatal Emergency Medicine



「東京都母体救命搬送システム」において三次医療施設としての役割を、また「東京都周産期医療ネットワーク」では、二次医療施設としての役割を担っています。

新生児集中治療室(NICU)

Neonatal Intensive Care Unit



NICUの施設認定を有しており、産婦人科・小児科を中心に各診療科が連携し、東京都周産期医療体制の中で地域連携病院として母体及び新生児の救急搬送を受け入れています。



全職員対象院内BLS講習

Basic Life Support Training for All Staff

地域救急医療を担う基幹病院として、救命専門家のみならず全職員および市民対象の心肺蘇生講習を行っています。常に最新の心肺蘇生を習得できる教育環境を整えています。



災害医療訓練

Training for Disaster Medicine

職域横断の災害対策ワーキングチームによって企画運営され、毎年地震などの大規模災害を想定して訓練しています。訓練の度に改良を重ね、災害に備えています。



豊かな毎日のために

QOLを重視した医療

Quality of Life as a Goal of Our Medical Service

健康な生活を必要とするすべての人に、
高度で専門的な医療を提供します。

We provide advanced, specialized treatment to everyone for a healthy life.

高齢化による疾病構造の変化、生活習慣病、ストレス、うつ病の増加など、私たち現代人はつねに病と隣り合っています。そこで東京医療センターでは、専門性の高い25の診療科を設置し、すべての患者の皆様の健康と向かい合う総合医療を実施しています。

耳鼻咽喉科 聴力を回復させる革新的な手術

Otolaryngology:
Cochlear implantation

人工内耳は、先天性高度難聴のお子さんや髄膜炎などで後天的に聴力を失った患者の皆様に再び聴覚を獲得させる新しい手術で、コンピュータの進歩によって実現しました。



▲人工内耳の内部装置と電極



眼科 眼科のあらゆる分野で 先進的な医療

Ophthalmology:
Advanced and Sophisticated
Treatment in all Fields

白内障、緑内障、網膜硝子体手術、角膜移植からエキシマレーザー屈折矯正手術まで、専門性の高い眼科診療とともに、臨床研究センターと連携して臨床研究を推進しています。

心によりそう看護 Nursing with Consideration for Patients' Feelings



看護部の理念「心のゆたかさを重視した質の高い看護の提供」の実践に努めています。



リハビリテーションセンター Rehabilitation Center

患者の皆様のQOLの向上を考えて、各科の医師、病棟看護師、他のコメディカルと連携を取りながら、理学療法、作業療法、言語聴覚療法を施行しています。

人工関節 Joint Replacement Surgery

QOLに大きな影響を与える運動機能の障害に対して、多くの手段を用意しています。中でも人工股関節・人工膝関節手術は、毎年100人近くの患者さんを関節の痛みから解放しています。



内視鏡 Endoscopy Unit



消化器、呼吸器、耳鼻咽喉科領域を中心に、内視鏡検査と内視鏡治療を幅広く実施し、がんの早期発見や低侵襲治療に対するニーズに対応できる機器整備と技術の向上に取り組んでいます。



透析室 Hemodialysis Unit



透析患者数は毎年増加の一途をたどっており、それに伴い合併症で入院が必要になる方も増えています。安心して透析を受けいただけるよう心掛けています。



総合的なケアのために

あらゆるニーズに応える医療

Medical Services for All Needs

27の診療科と最新のシステムを備え、
患者の皆様のニーズに対応します。

Having 27 departments and up-to-date systems, we respond to the needs of all patients.

当院は、患者の皆様を健康を願い、可能な限りあらゆるニーズに対応できるよう努力しています。総合内科をはじめとした27の診療科（院内標榜を含む）で、最新の医療機器を備え、電子カルテで情報を共有し、専門的かつ総合的な急性期医療を可能にしています。

▶ 診療科目

- | | | | | |
|--|---|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・総合内科 ・呼吸器科 ・小児科 ・形成外科 ・産婦人科 ・麻酔科 | <ul style="list-style-type: none"> ・血液内科 ・アレルギー科 ・外科 ・脳神経外科 ・眼科 ・歯科口腔外科 | <ul style="list-style-type: none"> ・腎・内分泌代謝内科 ・消化器科 ・乳腺科 ・心臓血管外科 ・耳鼻咽喉科 | <ul style="list-style-type: none"> ・膠原病内科 ・神経内科 ・呼吸器外科 ・皮膚科 ・リハビリテーション科 ・放射線科 | <ul style="list-style-type: none"> ・循環器科 ・精神科 ・整形外科 ・泌尿器科 |
|--|---|--|---|---|

▶ 病床数

入院定床 780床（一般730床、精神50床）

総合内科

Department of General Internal Medicine



プライマリーケアの再認識の下、日本における総合内科の先駆けとして1986年に開設されました。医師の卒業研修の中心的役割を担い、各専門領域の隙間を埋める重要な役割を果たしています。

精神科

Department of Psychiatry



うつ病の方を中心とした薬物療法、電気けいれん療法、精神療法、環境調整などの多面的アプローチ、開放環境の病棟、身体各科との連携、緩和ケアへの参加などを行っています。

外来診療

Outpatient Clinics



地域の医療機関と密接に連携・協力し、当院での高度な専門的診療や複数科の協力が必要な患者さんを受け入れ、病状安定後は登録医をはじめ、地域の医療機関などをお願いすることを基本としています。

生理機能検査

Ultrasound and Other Functional Examinations



超音波（腹部・心臓・乳腺・頸動脈など）や心電図、呼吸機能、脳波、聴力など幅広く生理機能検査を行っています。また、新生児先天性難聴の有無を確認する検査も病室に伺いに行っています。

電子カルテ

Electronic Medical Records



2006年1月から導入された電子カルテは、各科、各職種の記録や指示が一元化し、医療安全、患者サービスの両面で改善をもたらしました。今後もさらに改良を目指します。

人工心肺（心臓血管外科）

Heart-Lung Machine for Cardiovascular Surgery



心臓や大動脈の手術では多くの場合、一時的に心臓の動きを止める必要があります。その際、生命維持のために人工的に心臓と肺の機能を代行する装置が人工心肺です。

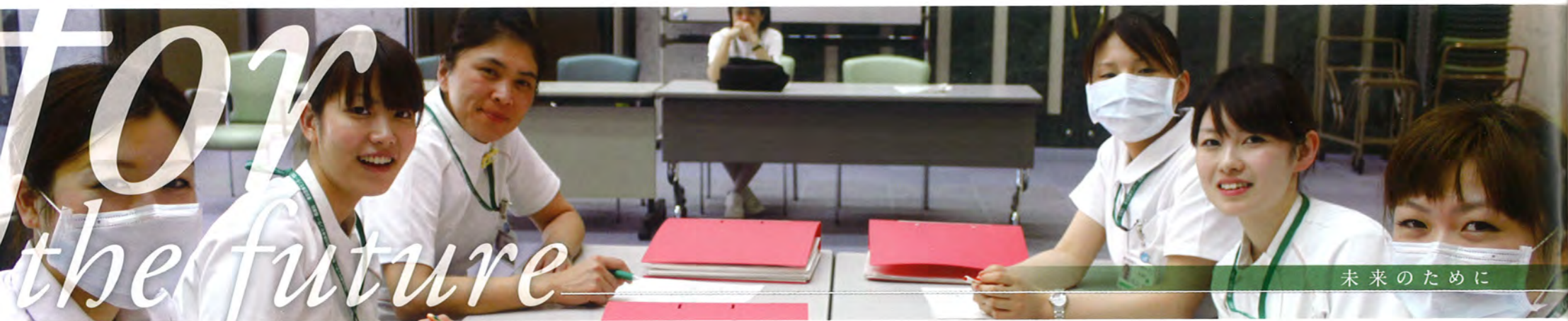
健診センター

Preventive Health Check-up Center



健診センターは一般の半日ドックはもちろん、脳ドック、動脈硬化ドック、2009年秋からはPET/CTによる健診を加え、さらに充実した健診を実施しています。





未来のために

充実した教育・研修制度

Substantial Systems for Education and Training

教育・研修に力を注ぎ、未来の医療を担う
よき医療人を育成する環境があります。

We have a sound educational environment to train effective medical personnel for the future.

超高齢化、国際化など、人類を取り巻く状況が大きく変化する今日、時代を見据えた医療人育成のあり方の再考が急務です。当院は、よき指導者、設備を備え、医師の臨床研修、看護学生、助産学生の学校教育、職員の教育・研修に尽力し、患者の皆様の立場に立った医療を提供する人材を育成しています。

看護実習

Training of Student Nurses

看護学生、助産学生はもちろん「認定看護師教育課程」などの実習を受け入れています。各専門性の高い医療人の育成に努めます。

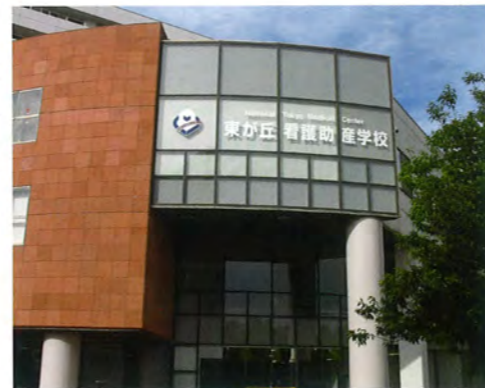


東が丘看護助産学校

Higashigaoka School of Nursing and Midwifery



看護師・助産師の歴史ある養成学校として多くの優秀な人材を輩出しています。恵まれた学習環境のなか、医療人としての人間性、自律性を身につけた看護実践者の育成を目指しています。



新看護大学

School of Nursing, Tokyo Healthcare University

2010年4月、国立病院機構キャンパスとして東京医療保健大学東が丘看護学部看護学科を開設。100名の定員で保健師、看護師の受験資格取得可能。同時に診療看護師（NP）のコースも20名定員で大学院を開設。若さあふれる地になることが期待できます。

接遇教育

Training for Warm-hearted Care and Service

病院の職員は、患者の皆様やご家族の皆様へ「おはようございます」「お大事に」など、声を出して相手に気持ちが伝わるよう心のこもった挨拶や言葉かけを、一人ひとり常に心掛けることが大切です。毎年新採用者は専門家から接遇の基礎を学んでいます。



シミュレーション・ラボ

Simulation Laboratory



教育研修部が運営するシミュレーションラボは、東京医療センターで働くすべての医療従事者が、随時トレーニングが行えるように各種シミュレーターと現場で実際に使用している医療物品を取りそろえています。



研修医制度

Residency Program for New Doctors

当院では、50名を超える初期臨床研修医と、100名近い後期臨床研修医が日々働きながら、良質な医療を提供できる医師となるべく研鑽を積んでいます。大病院を除く研修病院としては常に最上位の人気をいただいています。

文献情報センター

Library and Medical Literature Center

当院の図書室は、国立病院機構全体の文献情報センターを兼ね、職員が患者の皆様のため、研究のため、教育・研修のために利用するのみでなく、他の施設からの文献入手依頼にも対応しています。

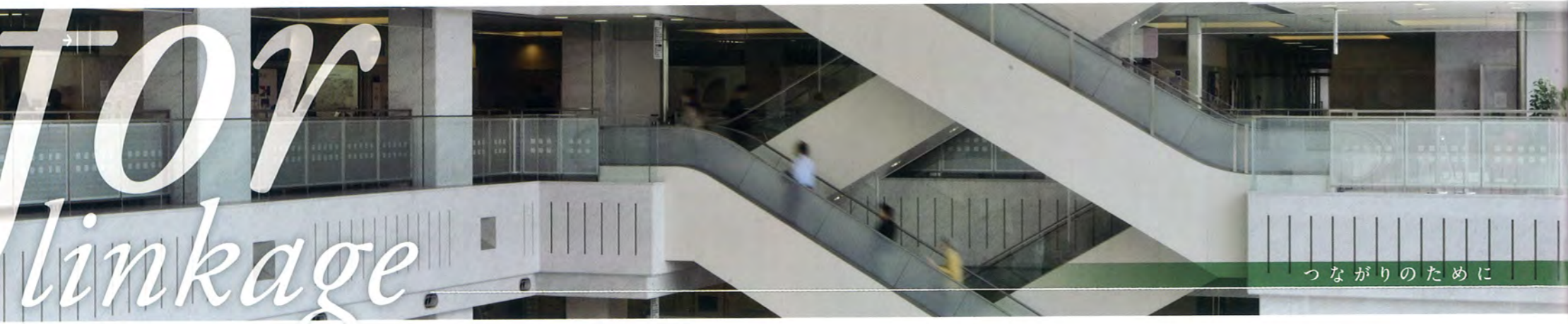


職員の教育・研修

Training and Education for Personnel



「患者の皆様とともに健康を考える医療」には、人の育成が何よりも大切です。それぞれの専門職のなかで技術を高め合う努力を続けるとともに、職種を超えた、倫理やコミュニケーションなどに関する研修会などを定期的に行っています。



つながりのために

信頼の医療連携

Coordination with Community Doctors and Distant Hospitals

かかりつけ医との連携を強化し、健康な生活を支援しています。

We have good coordination with community doctors to support patients' health.

患者の大病院集中が指摘される昨今、かかりつけ医の存在が重要視されています。東京医療センターは、地域医療連携室を基軸に、患者の皆様を健康に保ち、かかりつけ医と当院との架け橋になります。また、地域の方々と交流する場所を設け、皆様に信頼される病院を目指します。

地域医療連携室 Healthcare Coordination Unit

患者紹介・逆紹介、医療機器の共同利用などを通じて院内医師と地域医療機関との橋渡しをしています。また地域の保健、福祉、介護機関などとの連携にも貢献しています。



登録医制度

Registration System for Community Doctors

2007年より登録医制度を施行しています。登録医の先生は、電子カルテ閲覧による紹介患者さんの病状や経過の把握および回診が可能となり、医療連携がより密接になりました。

地域医療 カンファレンス

Medical Conference with Community Family Doctors

地域の診療所・病院・医療関連施設で活躍する医師やコメディカルの方たちと当院スタッフとの合同研修の場として、地域医療カンファレンスを開催しています。



医療福祉相談室（相談支援センター）

Medical Welfare Consultation Unit



傷病によって引き起こされた心理・社会的な問題に対して、ソーシャルワーカー、在宅療養支援看護師、医師が、入院・外来を問わず、それぞれの専門の立場から相談を受けています。

市民公開講座

Public Lectures for the Community



2000年より、市民の方々を対象に地域交流と健康増進を目指して市民公開講座を開催しています。専門領域を担当する医師が得意分野を中心に定期的に公演を行い、皆様から好評をいただいています。

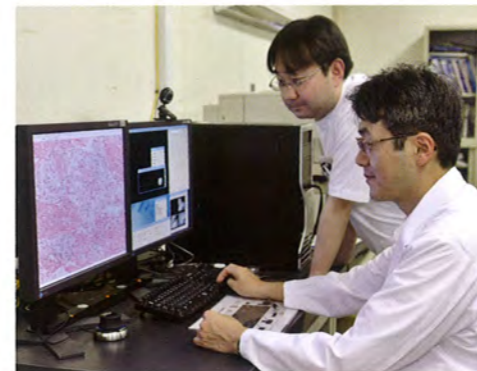
遠隔診断

Telemedicine



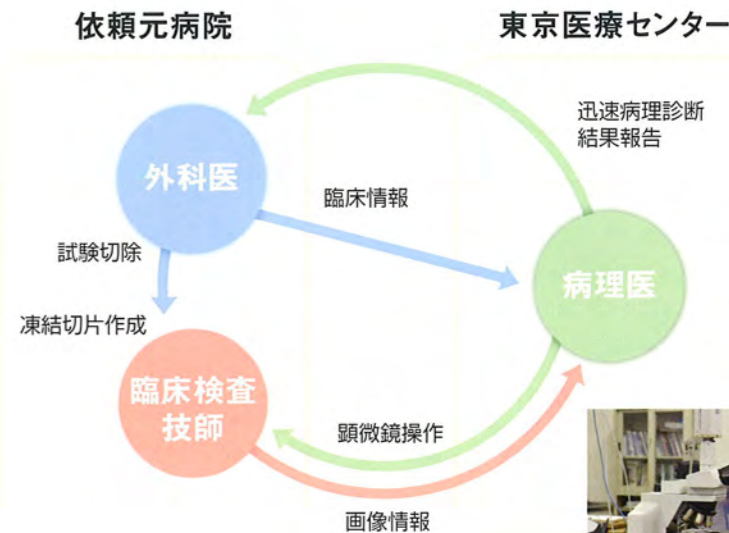
▲放射線診断 Teleradiology

遠隔放射線診断システムを使用して、当院にいる放射線科医が依頼元病院から送られてくる画像をモニター上で確認し、診断を行って、放射線診断専門医がない依頼元病院を支援しています。



▲病理診断 Telepathology

遠隔病理診断システムを使用して、当院にいる病理医が依頼元病院の顕微鏡を遠隔操作してモニター上で観察し、迅速病理診断を行って、依頼元病院の診療の質向上に貢献しています。





医療の発展のために

総合臨床研究

Comprehensive Clinical and Basic Medical Research

感覚器センターを基軸として
日本をリードする総合臨床研究施設を目指します。

It is our goal to make a leading clinical research center based around the National Institute of Sensory Organs.

「眼と耳からすべての情報が届く」と言ったのは、かのレオナルド・ダ・ヴィンチです。そして、「眼と耳は観念（脳と精神）の働きによって生きる」とも述べています。高齢化に伴い、視覚、聴覚・平衡感覚、その他感覚器機能の低下に悩む患者さんが増え続けています。東京医療センターは、感覚器疾患分野を中心に、総合臨床研究施設への発展を目指しています。

治験管理室

Clinical Research Administration Center

臨床研究センターの中で治験管理室は、薬剤や医療機器の臨床試験をさまざまなセクションと連携しながら実施する治験業務を担っています。臨床試験コーディネーターが活躍しています。



倫理委員会・治験審査委員会

Institutional Review Board

当院では多くの臨床研究や治験が活発に行われています。外部委員も加わった倫理委員会と治験審査委員会が厳正な審査を行って、被験者の人権擁護を図っています。



臨床研究センター(感覚器センター) Clinical Research Center (National Institute of Sensory Organs)

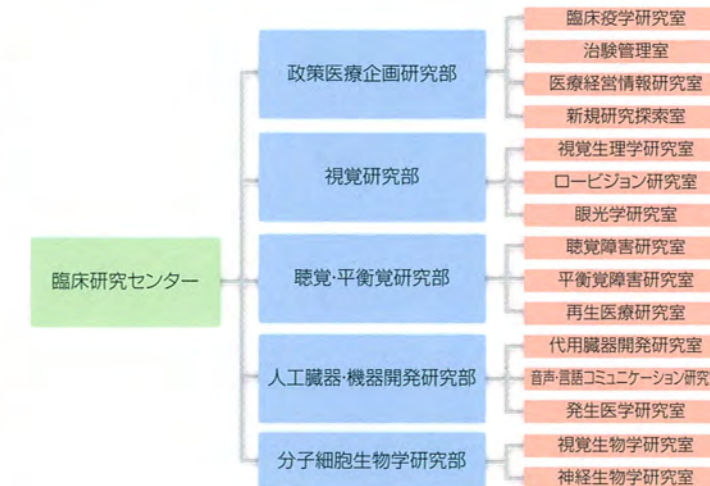
臨床研究センターは、2003年、組織の拡張により感覚器疾患の診療や研究、教育および情報発信を柱に「感覚器センター」としてさまざまな活動を展開しています。高度先進医療技術を臨床に導入し、わが国の医療の質の向上と医療政策への反映を担っています。



▲聴覚研究:モルモットの内耳の連続組織切片をコンピュータ上で3D再構成



▲視覚研究:視覚障害に関連するタンパク質の質量分析器による同定



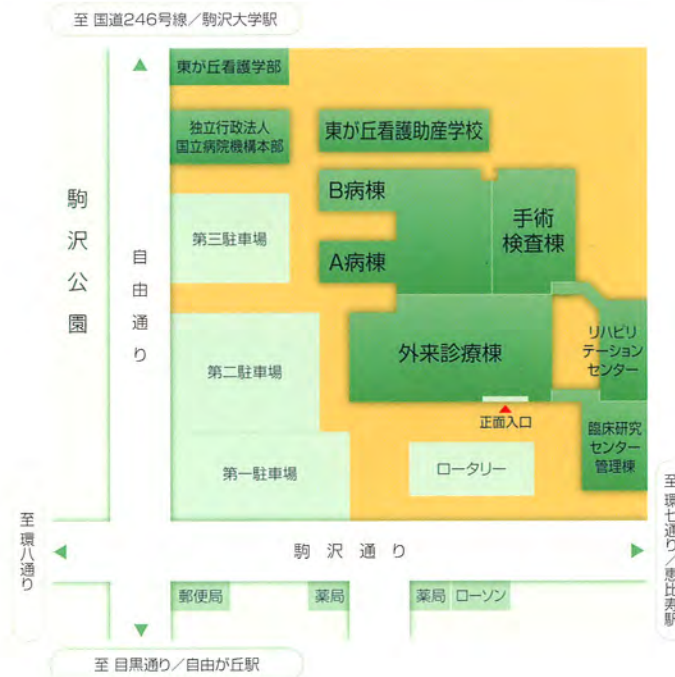
国立病院機構ネットワーク共同研究 Research Network of National Hospital Organization

研究ネットワークは、がん、脳卒中、心筋梗塞、糖尿病の四疾患中心に再編成されました。当院は感覚器研究の上に、総合病院にふさわしい研究力を創ることを期待されています。

当院が参加している
研究領域一覧

- がん(呼吸器)
- 循環器
- 神経・筋疾患
- エイズ
- 骨・運動器疾患
- 呼吸器疾患
- 外科・麻酔科
- がん(消化器)
- 脳卒中
- 感染症
- 糖尿病
- 免疫異常
- 肝疾患
- 経営管理
- がん(一般)
- 精神疾患
- 成育医療
- 感覚器
- 血液疾患
- 消化器疾患

病院全図



独立行政法人 国立病院機構 東京医療センター

〒152-8902 東京都目黒区東が丘2-5-1
TEL. (03) 3411-0111 (代表) FAX. (03) 3412-9811 (代表)
2-5-1 Higashigaoka, Meguro-ku, Tokyo, Japan
<http://www.ntmc.go.jp/>